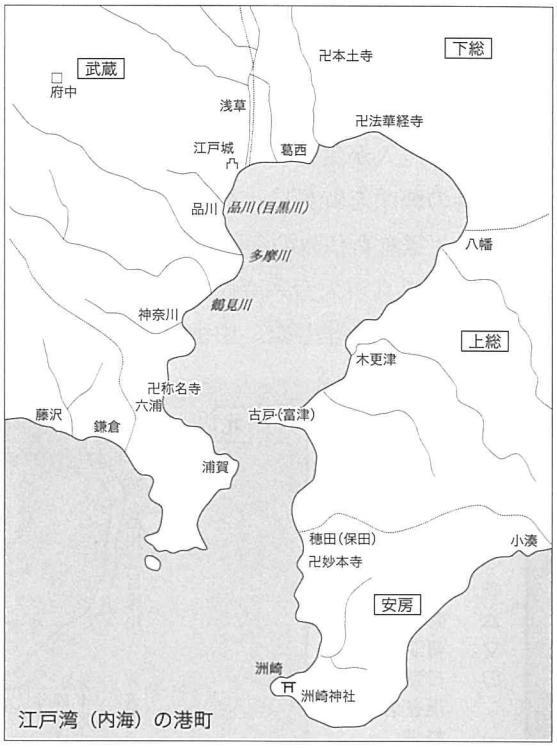
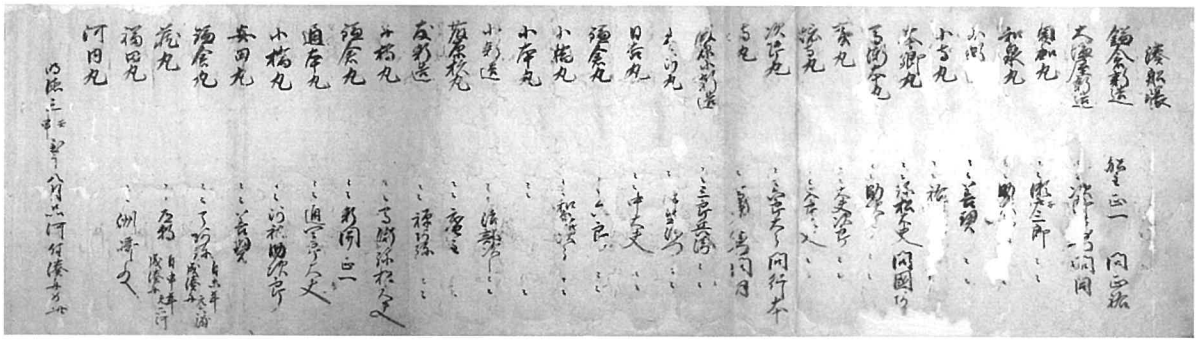
中世品川のにぎわい

太平洋海運と品川

中世の品川は、六浦（むつら）、神奈川（横浜市）とならぶ関東の重要な港町で、海陸交通と物流の拠点であった。太平洋海運による東西交易の場として繁栄し、湾内の交通はもとより、西国から運ばれた物資は、品川を経由して武蔵野平野の各地へ届けられた。品川に来航する船には帆別銭が課税され、その税により鎌倉の円覚寺や金沢称名寺（横浜市）の堂塔が造営されるなど、品川は鎌倉の後背地として重要な位置を占めた。称名寺金沢文庫には、南北朝時代の「湊船帳」など当時の港の繁栄がうかがわれる文書が残されている。室町時代に入ると、品川では紀伊半島の熊野地方出身の海運商人・鈴木道胤（どういん）や榎本道琳（どうりん）などの有徳人（うとくにん）を始めとする人々が活躍した。



江戸湾（内海）の港町



〔端裏書〕
「千湊船帳 自正月至八月品河分」

湊船帳

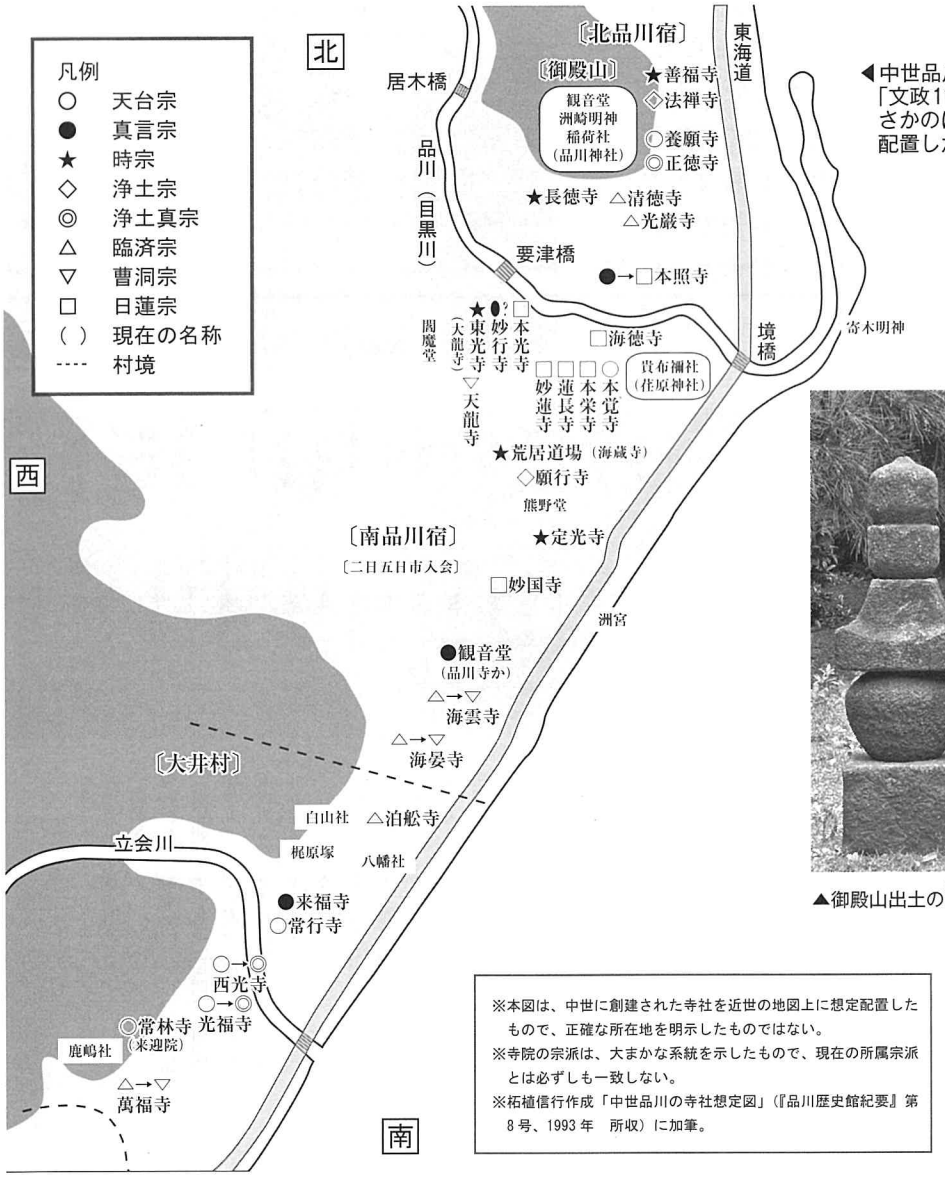
鎌倉新造	船主正一
大塩屋新造	問正祐
奥加丸	〃〃次郎□衛門
和泉丸	〃〃瀬戸三郎（子）
小新□（船カ）	〃〃助次□（郎）
〃〃善契	〃〃善契
小寺丸	〃〃祐□
本郷丸	〃〃弥松大夫（孫カ）
馬瀬本丸	〃〃助次□（郎）
夷丸	〃〃大夫次郎
境寺丸	〃〃大郎□夫（太）
次郎丸	〃〃六郎大郎（太）
寺丸	〃〃馬瀬□衛門
藤原小新造	〃〃三郎兵衛
参河丸	〃〃□□衛門
日吉丸	〃〃中大夫
鎌倉丸	〃〃六郎
小橋丸	〃〃和泉次郎
小本丸	〃〃
小新造	〃〃治部次郎
藤原杉丸	〃〃庵主
友新造	〃〃禅阿弥
子持丸	〃〃馬瀬弥松大夫（孫カ）
鎌倉丸	〃〃新開正一
通本丸	〃〃通四郎大夫
小橋丸	〃〃河祐助次郎
安田丸	〃〃善契
鎌倉丸	〃〃了阿弥（自未年 成湊船 元六浦）
藏丸	〃〃道朝（自申年 成湊船 元品河）
福田丸	〃〃洲崎殿
河内丸	

明徳三年壬申 至于八月 品河付湊舟如此

▲湊船帳（称名寺所蔵・神奈川県立金沢文庫保管）明徳３年（1392）
上段に船名、中段に船主、下段に問（廻船業者）が記されている。

中世品川のまちと寺社

中世の品川のまちは、大井・品河氏の開発後、南北品川を中心に発展し、鎌倉府の保護の下に、武士や商人を壇越とする寺社が軒を連ね、宗教者、商人、職人、漁業や海運に関わる人々など、多くの住人が集住する都市的な場が形成された。港の繁栄を背景に、禅宗・浄土宗・時宗・日蓮宗など鎌倉新仏教の寺院が競って進出した。大井の地域を真言天台系寺院が占めるのに比べて対照的な様相を呈した。中世では鎌倉の寺院に直結した清徳寺・海晏寺をはじめ、海蔵寺（荒井道場）・本光寺・妙国寺（現、天妙国寺）・願行寺などの寺院が大きな役割を果たした。中には妙国寺のように寺地の寄進が相次ぎ、七堂伽藍を有する大寺院も出現した。北品川にある御殿山は、かつて海を一望できる小高い丘陵であった。幕末の御台場築造に伴う土取りの際に、14世紀後半～15世紀前半を主体とする板碑が、五輪塔・宝篋印塔・人骨とともに見つかった。江戸時代の桜の名所御殿山は、中世では、極楽往生を願って供養や葬送が行なわれた霊場であった。



◀中世品川の寺社想定図
「文政11年品川図」に、中世にさかのぼると推定される寺社を配置した。

▲御殿山出土の五輪塔（左）・宝篋印塔（右）

※本図は、中世に創建された寺社を近世の地図上に想定配置したもので、正確な所在地を明示したものではない。
※寺院の宗派は、大まかな系統を示したもので、現在の所属宗派とは必ずしも一致しない。
※柘植信行作成「中世品川の寺社想定図」（『品川歴史館紀要』第8号、1993年　所収）に加筆。

品川区立 品川歴史館
〒140-0014品川区大井6丁目11番1号　03-3777-4060